

膨化, 変形, 減少, mitochondria の膨化, Cristae mitochondrialis 矩不整化, Endoplasmic reticulum の減少, Golgi 装置の消失をみとめ, Langhans 細胞では

mitochondria 減少, 膨化, Cristae mitochondriales 矩不整化, Endoplasmic reticulum の減少, 細胞質の狭小化, 細胞膜の波状不整化などをみとめた。

## 第10群 性器の生理に関する問題

### 101. (演) 婦人骨盤腔の解剖学的研究 (第3報 子宮周囲結合織)

(札幌医大) \*小森 昭, 小森昭人  
平沢 峻, 横山幸生, 倉増敏男

先に報告したリンパ系, 血管系の知識を基礎として骨盤側壁に附着する子宮周囲結合織を, 婦人屍体について骨格系, 筋肉系, 神経系との関連に於てこれを検索した。

① Retinaculum uteri pars posterior (Lig. sacrouterina) (起始) 子宮頸部後面の5時, 7時の部分より起つて扇状に拡がり, (走行) 直腸を両側から擁する様に M. levator ani の上を前下方に走り, (付着) 仙骨前面の S<sub>3</sub>S<sub>4</sub>S<sub>5</sub> の前仙骨孔縁に附着する。

② Retinaculum uteri pars media (Lig. cardinale) (起始) 子宮頸部側面の3時~4時, 8時~9時の部分より起つて漸次拡大し, (走行) M. levator ani の上を斜上方に走り, (附着) 骨盤側壁の大坐骨孔に附着する。ここは仙骨前側縁から起つた M. piriformis が骨盤外に没入する部分で占められている。即ち Lig. cardinale の骨盤側壁附着部を内側縁, 外側縁, 下側縁及び上側縁に分けて定義すると, 外側縁は M. piriformis が M. obturatorius internus に接する部分で, これは Arcus tendineus M. levator ani の延長で Arcus supra-piriformis と呼ばれる部分であり, 下側縁は M. coccygeus の最上縁が M. piriformis に接する部分で各々の筋膜の結合織線維が本靱帯内に入っている。上側縁は A. uterina を含む結合織で, これは A. iliaca interna に移行し, 内側縁は N. pelvis をへだて、大部分が結合織線維で占められている Lig. sacrouterina に接している。

### 102. (演) 仙骨子宮(腔)索の性ホルモン学的意義

(横浜市大) 塩島令儀, 神保芳二  
(国立静岡) 市川 孝男

卵巣子宮索の線維性結合織を通りエストロゲン(以下エ)が直接子宮に流入することは既に発表した。腔も又「エ」の Target と云われ, 「エ」に対し極めて鋭敏な

反応を示すことが知られている。この際「エ」は血行により腔に達するもので, 腔粘膜は「エ」に対し感受性が高い組織であると考えられている。

卵巣子宮索の切断, 子宮動脈・内腸骨動脈を切断した白鼠の腔周期は術前と全く変化がないことから, 動脈系が「エ」の供給路であることは考え難い。又腔欠損症において, 移植された表皮が本来の腔粘膜の如き変化を示す臨床的事実は腔の感受性と云う考え方に疑問がある。

我々は先に卵巣リンパ管の切断, 骨盤壁リンパ節の剔除により腔周期に減弱乃至停止が見られることを白鼠における実験で示した。そこで骨盤壁と腔を結ぶ線維性結合織である仙骨子宮(腔)索の切断を行い, 白鼠性器並びに性機能に及ぼす影響を検した。この結果子宮への「エ」作用とは無関係に腔周期を停止せしめることが出来た。

以上の結果卵巣リンパ管・骨盤壁リンパ節を経た「エ」は本線維索を介し腔に達することが判明した。即ち腔が骨盤下腔の器官であり, 仙骨腔索で保持される解剖学的な関係は, 体液的な見地から見れば腔の外部環境であり, 一見腔の感受性と考えられるものは「エ」の豊富に存在するその場所によると解するのが妥当であろう。

### 103. (演) 子宮筋機能に関する研究(第2報) 電解質について

(京府医大) 徳田源市, 井上正二  
\*細田澄之

筋収縮機序に関する諸因子の1つとして, 電解質特に Ca, Mg, K, Na が考えられている。

子宮筋収縮に関する研究の一環として, 白鼠の子宮筋及び血清を用いて, 妊娠各時期, 性 Hormone 投与時, 薬剤投与時及び非妊成熟白鼠の性周期の電解質の変動を検討するために, Ca, Mg は柳沢氏変法, K, Na は Lange の焰光光度計を用いて測定し若干の知見を得たので報告する。

非妊時, 及び妊娠各時期においては, 血清と子宮筋組織の総 Ca 及び Mg 量, 透析性 Ca, 及び Mg, 並びに